

「市はどきどき」「いきなり」「いきなり」依然として反発の声続く

上越市が安塚区地域協議会に産業建設グループ集約について説明

8月20日に開催された安塚区地域協議会（外立軍一朗会長）を傍聴してきました。7月27日に行われた市議会総務常任委員会での議論を踏まえて、総合事務所の産業建設グループの集約問題を市は地域協議会にどう説明しているか、またそれに対してどういう反応があるかを見ておきたかったからです。

説明にあたって市は、総務常任委員会で説明資料として使った「将来的な行政組織の再構築に向けた総合事務所の在り方について」という文書を17枚のスライドにまとめ、それを使って説明していました。

委員からの意見表明では、「地震だって、原発（事故）だってある。産業建設グループの集約だというのが、できないことをやろうとしているのではないか」「災害対応のために新たな体制整備を行うというが、現在いる部署を離れ、人間だけ集まっても、



応援に行った人はお客さんになりやすい。現状の方がいい」「（相談ごとなどで）総合事務所へ行くのも、（用が足りず）産業建設グループが集約された総合事務

合事務所へ行くことになり、二度手間になるのではないかと。直接、集約されている総合事務所へ行った方がいいと思う」「災害が起きたら、一発で木田の事務所に持っていく方がいいのではないかと」などの声が相次ぎました。

委員からの質問では、「産業建設グループ集約の検証をしようえで他のグループを集約するのか」「災害対応がメインに見えるが、安塚は豪雪地帯だ。雪で災害がいつも来るといことを頭にに入れて対応すべきではないか」などといったものもありました。これに対して土橋総務管理部長は、「残りのグループをいつまでにどうするかは具体的には一切考えていない。他のグループに広げることはいまの段階では考えていない」「雪は災害に匹敵する場合があります。地域社会の中で雪にどう対応するかは大きな課題だ。産業建設グループだけでなく、福祉などを含めた総合的な対策が必要だ」と答えていました。

市は今年度からの実施を予定していた大島、浦川原、安塚の3区での試行をやめ、来年度から全区での試行に方針転換しましたが、市側が示した方針には依然として批判的な声が多かったように思います。

市では、地域協議会向けの説明、意見交換を今月の終わりとろまで13区内のすべての地域協議会で行いたいとしています。

大島、牧区などで干ばつ被害

上越市の山間部、大島区、牧区などの田んぼで干ばつ被害が発生しているというので、現地を視察してきました。このうち、牧区芋ノ坪の田んぼ（写真）で

は、稲の葉の色が変わり始めていました。土の色は白っぽく、幅3センチほどの亀裂があちこちに見られました。生育障害も出ています。耕作者は、「もう、回復は望めない。早く手を打ってほしい」と訴えておられました。



【今年開設の福平直売所】小さな車庫を利用して開設された吉川区福平の野菜直売所です。地元でとれたきゅうり、トマトなどの野菜ばかりでなく、地元の写真愛好家の写真も飾ってあって、とてもいい雰囲気です。毎週火、木、土曜日のみの開設です。ぜひ訪ねてみてください。

市民のみなさんの意見をお聴きする会を開催します
 8月28日（火）午後7時から
 安塚コミュニティプラザ
 テーマは総合事務所産業建設グループの集約について
 事前申し込み不要。参加費は必要ありません。ぜひお出かけを！
 主催は日本共産党議員団です
 日本共産党市議団主催

春よ来い 第二十七回 みんな一つになって

第一回黒川・黒岩ふれあい祭りが一八日から二日間行われ、初日の夜の部だけ参加させてもらいました。この祭りは、先日行われた、市議会中山間地対策特別委員会と集落づくり推進員さんなどの意見交換会で話題になったイベントです。

訪れた時はちょうど夕飯時でした。会場となった黒川小学校グラウンドでは「ピース16」や柿崎商工会など地元の団体が屋台を出し、飲食物を販売していました。屋台はどこも行列ができ、私が並んだ焼きそばのところでは美味しい焼きそばを手にするまで二〇分もかかりました。

午後七時からのキャンプリファイヤーは黒川小学校児童の司会で進められました。グラウンドの真ん中で点火が行われ、その火を子どもたちが囲みました。私がカメラを向けた時、炎が大きく上がって、その形はアメリカの「自由の女神」そっくりになりました。火の周りでフォークダンス、「マイムマイム」が踊られました。キャンプリファイヤーを囲んだ踊りはフォークダンスが似合います。

続いて行われたのは樽太鼓の演奏です。これもまた、祭りを大きく盛り上げました。まずは黒川小学校児童による演奏です。同校は来春、閉校します。ふれあい祭りでは最初で最後の演奏です。繰り返し練習してきたでしょう、最初から調和のとれたいい音を出していました。

児童に続いて樽太鼓の演奏をしたのは、黒川小学校を卒業した若者たち。中学生、それに少しは高校生も入っていたのでしょうか。♪ドンドコドンドコドンドコドン、ドンドコドンドコドンドコドン、ドンドンドン、ドンドンドン。最初はぎこちなさがあったものの、後半になると、力強く、見事に統一したリズムで聴衆を魅了しました。私のそばにいた人は、「まったく練習をやらなかったのに、これだけの音が出せるなんて……」と言って拍手を送っていました。

この夜、キャンプリファイヤーを囲んで最後に行われたのは十三夜の踊りです。近くの米山寺という集落では、いまま踊られていると聞いていましたので、どんな歌詞で、どんな踊りなのか私も楽しみにしていました。

赤い法被を着て、鉢巻を締め、音頭とりの人たちが燃え続ける火の周りで唐傘をかざして十三夜を歌います。♪霊峰米山さんから秋風下りりや、ハーヨイヤサーノヤッサ、黄金色した稲穂が招く、ヨイヤナーヨイヤナー……。太鼓もこれに合わせて、バチツ、バチツ、ドン、ドン、音がよく響きます。

驚いたのは、踊りを知っている人が大勢いて、踊りの輪がどんどん大きくなっていったことでした。小さな輪は次第に大きく広がり、一重から二重となりました。踊り手はおそらく一五〇人くらいにはなったのではないのでしょうか。

私がこれまで、十三夜の踊りで一番印象に残っているのは吉川区尾神の盆踊りの時のものでした。お宮さんの広場でみんなが楽しみ、踊りの輪が広がっていく姿は子ども時代の忘れられない思い出となっています。今回の踊りはその規模といい、力強さといいい、尾神での踊りに勝るとも劣らないものでした。

最後の花火、全部で百発を超えたのではないのでしょうか。静かになって、もう終わりがかと夜空を見上げてみると、シユルシユル、ドン。私の近くにいた人たちの中から声が聞こえてきました。次の花火はヒザが治った〇〇さんの祝いの花火ですとやったらいいね……。みんなが一つになって盛り上げる、その工夫はまだ続きます。

(仮称)厚生産業会館は全区地域協議会に諮問すべき

党議員団主催で21日、「(仮称)厚生産業会館について市民のみなさんの意見をお聴きする会」を開催しました。会場となった市民プラザには、高田、直江津、安塚などから10数人のみなさんが集まってくださいました。

参加者からは、「造ることが前提となってすすめられている。覆すことはできないのか」「そもそもこの問題は地域事業費の見直しから始まった。13区のみなさんからねたみもある。果たして、いま必要なのかどうか疑問だ」「議会と検討委員会のどっちが大事かという議論があったようだが、もっと議会を重視せよと大きな声を出すべきだ」「13区の市民から見れば、高田区の私物化に見える。13区はいま、総合事務所の産業建設グループの問題で頭がいっぱいだ。まだ使える施設があ

ることを市民が知らない状況もある。本当に必要なのか。議員にもっと頑張ってもらいたい」「これを造る金があるなら、子どものためのプールを造ってほしいし、中高生のための学習の施設がほしいという声もある」「合併した以上、こういう施設は全市で考えて、すべての地域協議会に諮問し、議論すべきだ」といった声が出されました。

全体として多かったのは、「この施設に関しては高田区だけでなく全市の問題として全区の地域協議会に諮問すべき」という意見と、「そもそもこの施設が本当に必要なのか、議会でもっと議論してほしい」という要請でした。これに対して、私から、「地域自治区の設置に関する条例の改正もふくめ検討していきたい」「そもそも論については党議員団を含めて議論が不足していると思うので、しっかり受け止めて頑張りたい」と答えました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです)

	8月15日(水)	8月22日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.047	0.043
東頸消防署	0.047	0.040
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.043	0.050